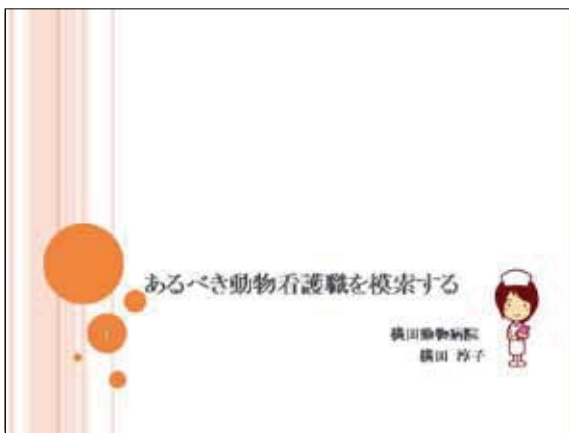




御紹介ありがとうございます。本日はたくさんの先生方に動物看護職のことに関してお話をいただき、本当にありがとうございます。

私は青森市に在住しておりますが、きょうは動物看護職ということで、当院に照らし合わせながら、これから

模索してみました。



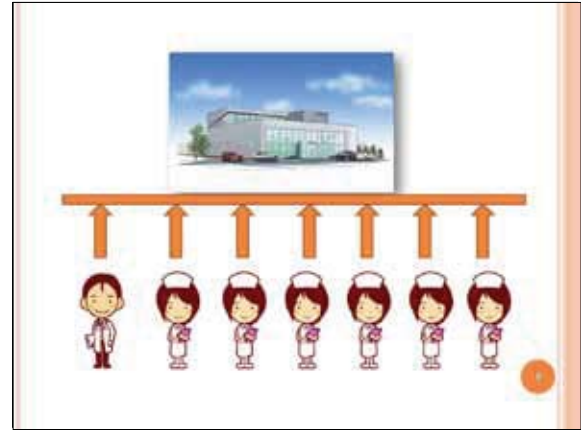
【スライド1】



【スライド2】

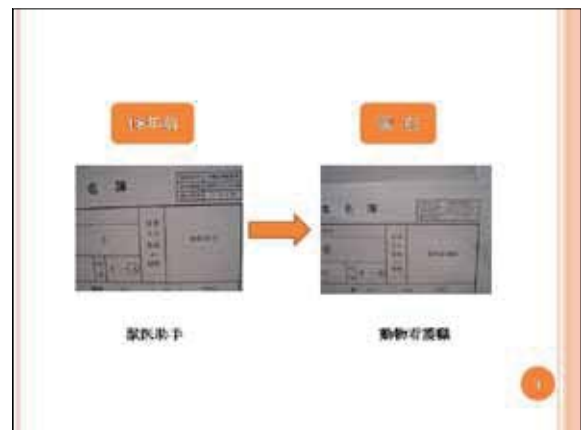
まずこれはペットフード協会の調査によると犬猫の飼育数が2008年、犬が2,310万1,000匹、猫が1,089万匹となっております。毎年ほぼ上昇傾向にあります。青森でも犬猫は家の中で大切に育てられ、寿命が延び、15歳の犬も珍しくなくなりました。犬猫も人間と同じで、予防医学とともに高齢化により動物病院のニーズが高まっていることと思います。【スライド2】

これは当院のスタッフ構成です。獣医師1名、動物看護職6名です。この7名で当院は支えられております。



【スライド3】

土地柄のせいばかりではないかもしれませんが、いつも獣医師は募集しておりますが、1名から2名を行ったり来たりで、ぜひ本日御紹介いただける先生がいれば、ぜひ御紹介していただきたいと思います。ですから、当院では動物看護職の果たす役割はとても大切なものがあります。基礎医療で医師以外の看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、受付事務、環境整備としての清掃係まで、動物看護職が行っております。【スライド3】



【スライド4】

当院の労働者名簿であります。18年前、スタッフの募集をするために、私はハローワークに行きました。どんな職種を募集なさるんですかと聞かれ、私は何と答えようか迷ったんですが、そこでは獣医助手という答えをしました。ですから、18年前のうちの労働者名簿には獣医助手という記載があります。現在では、獣医助手として1人の獣医師の指示を6名で待っている状態ではありません。一人一人の動物看護職が、自主性を持ってそれぞれの仕事に当たることが必要となっております。あ

れから18年がたち、当院では動物看護職という名称を使用しております。【スライド4】

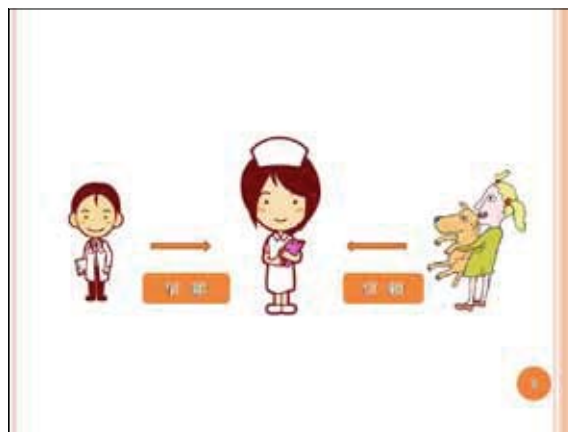
私は動物医療の現場において、動物看護職は、動物の飼い主さんから、また獣医師から、同僚から信頼をしていただくことがとても大切だと思っております。信頼をより大きく、強くしていく努力が必要だと思っております。その大切な信頼を得るために、動物看護職には動物看護技術、コミュニケーション技術の習得が不可欠だと思ってきました。

数年前、当院でも新人看護職が3名入った年に、よい機会だから、接遇の講師を青森にお招きをして講習してもらおう、全員が東京の講習会に行くよりは費用的にもその方がいいだろうということになり、実施していただきました、シミュレーションなどもあり、とても有意義な講習でした。しかし、翌日、私の手元にあったものは、1枚の退職届でした。退職の理由は、動物が相手だと思っていた、人を相手にする仕事だと思っていなかった。動物看護職は、言葉を話せない動物に寄り添い、飼い主さんと獣医師をつなぐ存在であります。よいコミュニケーションなしには、よい動物看護はないと思います。

【スライド5】【スライド6】

当時の受付からの写真ですが、動物看護は、飼い主さんがそのドアを入ったときから始まっている。いや、そうではなく、ドアではなく、既に病院前の駐車場から始まっているのだと思います。当院では、駐車場前で待たれる飼い主さんも多く、広く目を配ることも必要となります。本当の動物看護は、いろいろな場面、場所で存在すると思います。【スライド7】

動物看護職は、現在、資格、名称、職域などにおいても、社会的に統一されたものではありません。これらのことが定まったときに、近い将来、動物看護師、あるいは別の名称であったとしても、職業として次のステップに進めるものと考えます。【スライド8】



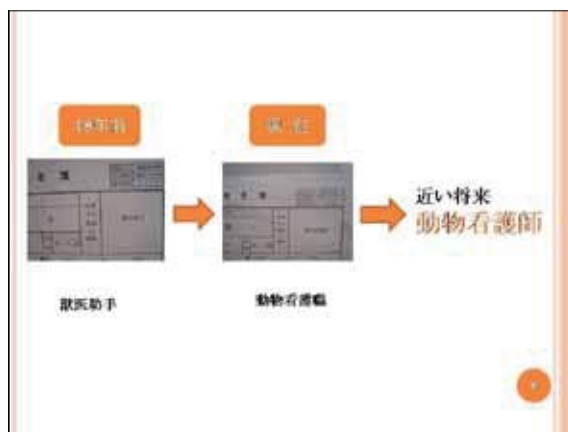
【スライド5】



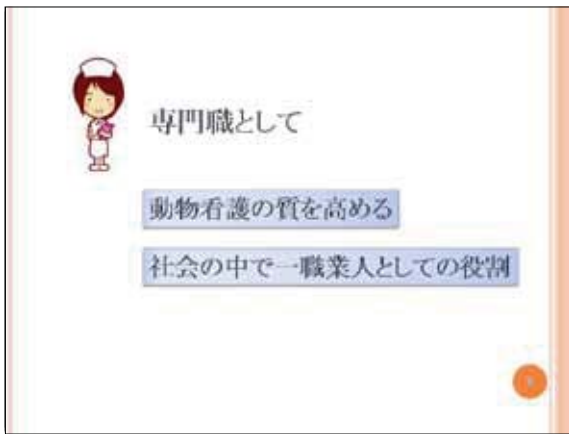
【スライド6】



【スライド7】



【スライド8】



【スライド9】

次のステップは、動物看護の専門職になることだと思います。社会的に認められた資格を持ち、みずから動物看護の質を高めるための看護研究、看護実践をし、社会の中でも自分の職業人としての役割を考えていくことだと思います。動物看護の質を高めることが、社会の中で動物とともに暮らしている方に果たすべき動物看護職の役割だろうと思います。その役割をきちんと果たしていくことが、社会に私たち動物看護職である、動物看護師が認知されていくことに必ずつながっていくと思います。 A B t B / BB : A



A B t B / BB : : A

今年5月、日本で初めて動物看護職の職能団体として日本動物看護職協会が設立されました。全国組織ということで、動物看護職の将来に少しでも役に立つことがあれば私も参加させていただいております。先ほども申しました専門職として動物看護の質を高めることはもちろんですが、動物看護職には、現在、統一の資格がなく、社会的信用度、認知度が低い、賃金などの処遇の問題など、問題が山積みになってます。しかし、まだまだ会員は少なく、実際の活動はほんの一握りの看護職が手弁当状態で行っています。会費に見合ったものを返せるのは、もしかしたら5年後、いや10年後なのかもしれません。しかし、動物看護職の一人一人が手を携え1歩を踏み出さなければ、将来につながる道はないと思います。

ぜひとも動物看護職の皆さん、手を取り合い、将来に向かっていきましょう。また飼い主さん、動物関連業種の方々、御協力をよろしくお願いいたします。A B t B / BB : : A
本日は御清聴ありがとうございました。



A B t B / BB : : A

